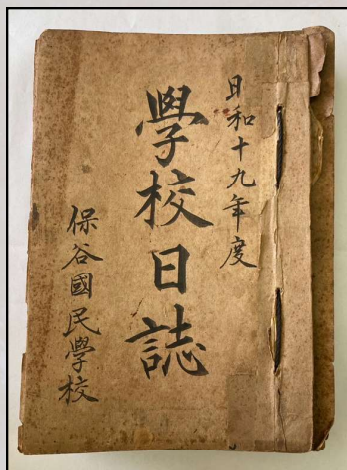


戦時中も続く、学校の日常

とくべつ
特別
てんじ
展示

戦時中の子ども・若者



保谷小学校に保管されていた
「昭和19年度 学校日誌」



市立保谷小学校 校舎

学校日誌が当時を語る

保谷小学校は、昨年（昭和19年）に開校百五十周年を迎えた学校です。

八十年前（昭和10年）、戦時中も学校の日常はありました。

毎年、西東京市の平和の日には、校長先生が戦争当
時の学校の様子を伝え、今のあたりまえの生活が戦
争の時には子どもから奪われていたこと、平和の大
切さを語り継いできました。

今回の展示では、お話の元となった当時の学校日誌
を公開します。淡々とした記録の中にも、今とは違

う戦時中の小学校の様子が描かれています。

みなさんも、この記録から当時の子どもの様子を想像し、戦争と平和について考えて

みましょう。

戦争中も学校に通っていたんだね。
どんな様子だったのかな？



保谷国民学校高等科の生徒たち
1945（昭和20）年

戦争末期には、高等科（当時12歳～14歳）の生徒も軍需工場に動員されました。

『保谷の被曝記』より



昭和17年～昭和21年
第九代校長 富澤國造